



組織のリデザイン支援プログラムノウハウ移転事業

特定非営利活動法人藤沢市民活動推進機構

活動

県内10組織に対する自己診断ツールによる伴走支援の実施及び中間支援組織へのノウハウ移転

ボランティア団体が、自主的かつ安定的に活動を続けるためには、団体が自らの組織状況を把握することが大変重要です。弊団体が開発したセルフチェックツール「組織を支える17の視点」により、団体の現状をデータ化した後、県内中間支援組織（協力サポーター）及び専門家による伴走支援を行い、それぞれの団体に合わせた課題解決手法の提案やワークショップ等を実施しました。

支援対象団体には、回答シートの17の設問に回答いただきました。その集計結果をもとに支援方針の策定を行いました。支援方針及びプランが固まり次第、伴走支援を約4か月実施し、年度末には成果報告フォーラムにて活動内容を発表しました。

協力サポーターは、令和2年度に参画していた5地域の中間支援組織に加え、新たに2地域が加わることで、県内での支援バランスを整え、事業終了後の自走化に向け、蓄積データを活用したツールの自動化やノウハウを効率的に展開するための知識ベースを構築しました。

Check !

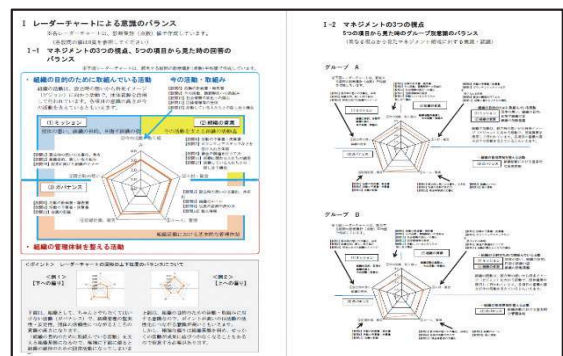
<事業基本データ>

実施期間 2021年度

委託料 計5,000千円



▲ 協力サポーター（中間支援組織）とのノウハウ移転学習会の様子



▲ 17の視点回答シートイメージ

成果

17の視点によって、団体の抱えている課題が明確に

①支援対象団体に対する成果

回答シートの集計結果をメンバーで共有することで、組織の現状・課題について話し合うきっかけとなりました。それによってコミュニケーションが活発になり、組織基盤及び運営に対する意識向上及び活性化に寄与する事ができました。伴走支援は、限られた期間での実施ではありましたが、提案された支援方針に基づいて、専門家のアドバイスを受けながら課題の改善に向けて取り組みました。



担当者のコメント

事務局長
細矢 岳彦さん

参加団体の「こんな組織にしていきたい、こうなったらいいな」を形にするべく、県内7地域の中間支援組織(NPO支援センター)とともに4か月程度伴走支援を行いました。団体に合わせた支援プランは、対面やオンライン等様々な手法にて実施し、組織基盤の強化やメンバーの組織基盤に対する意識の醸成につなげることができました。

県内の中間支援組織には、伴走支援を通して支援ノウハウを学んでいただきました。本事業が各NPO支援センターで行われる活動相談や事業等に活用いただけるよう引続き支援してまいります。

②協力サポーターに対する成果

他地域の支援事例を知ることで、組織が抱える課題や問題点の本質を探し出すトレーニングができた、活動相談スキルの向上に寄与することができました。事業終了後もツールを活用していただくため、集計結果の自動化ツールの作成及びその配布を行ったほか、ノウハウ移転学習会で使用したテキストを再構成、併せて本事業の伴走支援から特徴的な事例をピックアップして掲載した「分析事例集」を作成し、配布しました。

★ 参加団体の声 ★

・設立当初から日々の業務に追われてきた数年間で、一旦立ち止まり振り返る良い機会となりました。ありがとうございました。(支援対象団体アンケートより)

・リソースの少ない団体では問題点の全てに対応する訳にはいかないのですが、優先順位の決め方のアドバイスができるの良い。その際に事例集が参考になると思います。(協力サポーターアンケートより)



特定非営利活動法人
藤沢市民活動推進機構

代表者 理事長 手塚 明美

設立 2001年3月

住所 〒251-0052
藤沢市藤沢 577 番地
寿ビル 301 号室

活動紹介 「NPO を支援する NPO」として、まちの活性化のために、市民活動団体や行政、企業など他セクターとの連携をとりながら、NPO 支援やまちづくり関連事業を実施しています。



災害ボランティアによる防災・減災の啓発活動及び 被災地支援活動事業の実施

特定非営利活動法人ざま災害ボランティアネットワーク



▲ 座間市の冬の風物詩 ぼうさいカフェの様子



▲ 第10回 座間市いっせい防災行動訓練
幼稚園での ShakeOut 訓練の様子

実績

ざま災害ボランティアネットワークは、大規模な災害が起きた当初に、座間市、社協、青年会議所などと連携して「災害救援ボランティアセンター」を開設し、市内で被災された方のもとに活動ボランティアを派遣して生活再建の道筋ができるよう支援活動を行う団体です。災害の無い平時には、災害に備えて大切な「減災」と「災害対応」について、市民、学校、諸団体に向けてセミナー、ワークショップ、体験型訓練などの啓発活動に取り組み、危機管理意識の高いまちづくりに取り組んでいます。

また、被災地に仮設住宅ができる頃に、「タイ焼きプロジェクト」チームが現地へ入り、「元気と笑顔」を被災者に差しあげる活動に取り組んでいます。

NPO
法人

特定非営利活動法人
ざま災害ボランティアネットワーク

代表者 代表理事 濱田 政宏

設立 2008年 7月

住所 座間市入谷東 2-8-2-914
東建座間ハイツ

07 奨励賞



学校の空き教室を拠点とした本の貸出しやダンボール劇団、講演会など、幅広い活動を通じた居場所の提供

朝比奈小学校市民図書室



▲ 市民図書室の様子



▲ お話会の様子(ギルガメッシュ王物語三部作)

実績

朝比奈小学校市民図書室は今年開設40周年を迎えています。本を仲立ちに学校と地域社会を結び豊かなコミュニティの形成にお役に立てばと、世話人の得意とする力を集めて地域文化を発信してきました。子どもたちに大人気のダンボール劇団やお話会、昔遊びの名人さん、33年続いた講演会や現代史研究会、学校図書館改造整備常駐等、その活動は世話人にとっても生涯学習の場となり、地域の方々には定年後の知的好奇心の源となると喜ばれました。

今後も時代に即しながら、子どもたちや地域の皆さんに豊かな居場所を提供していきます。

任意
団体

朝比奈小学校市民図書室

代表者 会長 石川 裕子

設立 1983年 4月

住所 横浜市金沢区



玉縄城の遺構群と文化財をボランティアで “守り、学び、次世代に伝える”活動の実施

玉縄城址まちづくり会議



▲ 体験学習の様子



▲ 環境インストラクター講座 12月の様子

実績

私たちは歴史ミュージアム—玉縄城址を守り、龍寶寺の玉縄歴史館を運営しています。重文古民家、歴史民俗資料館、ギャラリーを活用して玉縄城と城主6代の歴史研究と展示、市民学芸員の育成を進めています。「むかしの暮らし小学生体験学習」では1万2千人の「修了生」を送り出しました。今は、玉縄歴史館や玉縄城址歴史トレイルへ、県内外から多くの見学者が来訪されます。来年の3月には大船駅からの「駅からハイキング」も実施。活動16年目の当会には「やること」がいっぱいです。

任意
団体

玉縄城址まちづくり会議

代表者 会長 荒井 章

設立 2006年 11月

住所 鎌倉市



高校内居場所カフェの運営等により、若者たちが 生き活きと暮らせる社会を作るための活動の実施

特定非営利活動法人パノラマ



▲校内居場所カフェ(カウンター)の様子



▲バイターンで若者の正式採用が決まった時の様子

実績

パノラマは、既存の社会的枠組みからこぼれ落ち社会的弱者となるリスクの高い若者たちが、パノラマ写真のように「フレーム・イン」でき、生き活きと暮らせる社会を目指し活動をしています。神奈川県立高校二校で「高校内居場所カフェ」等を運営し、様々な困難を抱える高校生を支援する他、地元の中小企業約 20 社と連携しながら、就労から自立を支える有給職業体験「バイターン」の仕組みを高校生と若者たちに提供するなど、若者たちの生きる力を育んでいます。

NPO
法人

特定非営利活動法人
パノラマ

代表者 理事長 石井 正宏

設立 2015 年 3 月

住所 横浜市青葉区桜台 25-1
桜台ビレジ・ショッピングコ
ドール R1 号室

10 奨励賞



荒廃した山林や休耕田の整備によって里山をよみがえらせ、
イネ作りや子ども達へ自然とのふれあいの場を提供

里山をよみがえらせる会



▲ 竹のツリーハウスの様子



▲ 栽培した大豆を活用し、味噌作りを行っている様子

実績

里山をよみがえらせる会は、山林・竹林の整備を行い、里山の保全や環境保全活動への協賛・参加をしています。

また、市民・学生が参加しての稲作の実施、カボチャ、大豆、そば、シイタケなどの農産物の生産と加工・調理をしています。

子どもたちへ遊び場を提供しながら、昔ながらの遊びや遊び道具（ブランコ、シーソー、竹登り、竹のツリーハウス、竹馬、竹ポックリ、竹のケン玉、ホタルかご作り）の体験、芋掘りを行い、自然の中での遊びを楽しんでもらっています。

任意
団体

里山をよみがえらせる会

代表者 会長 荒井 啓三

設立 2000年 10月

住所 平塚市